３月の掲示板より

「雛祭り」「左近の桜・右近の橘」

『桜の妖精たちも雛祭りをお祝い』

雛祭り　雛とは、小さいことを表わしています。雛人形は、神の依り代となる形代と呼ばれる人形（ひとがた・にんぎょう）の一種です。３月の上巳（三月の初めの巳の日）の節句に、身をこの形代で撫でて、穢れを遷した後に、川や海に流し、子供の健やかな成長を祈ることが、雛祭りの元になったと言われています。もともとは紙や土などで作られた簡単な人形で、１年の災いを受け止めた後に川や海に流されました。これを「雛流し」、人形を「流し雛」といい、その風習は現在も残っています。

この風習と、平安時代から続く宮廷貴族の子女の雛遊びとが結びつき、江戸時代に入って武士階級から町人へと広まり、雛人形を飾るようになったと言われています。

「左近の桜・右近の橘」雛人形に向かって右側（お雛様から見て左）には桜、左側（お雛様からみて右）には桜が飾られます。桜と橘には、古来より、「魔除け」「邪気払い」の力があると考えられてきました。また、「桃の節句」と言われるように、また童謡『うれしいひなまつり』に「お花をあげましょ桃の花」とあるように、桃の花を飾ってお祝いすることも多いでしょう。同じく古くから、邪気を祓うと言われている桃。その実は薬として用いられたり、桃太郎の鬼征伐の話に取り入れられたりしています。

雛祭りの由来や、各地のひな祭り、様々な種類の雛人形など、興味をもったことを調べてみましょう。